



よしだつうしん

吉田通信

第22号
【2016年7月】

〒950-1475 新潟県新潟市南区戸頭1347-1 TEL:025-372-1138 FAX:025-372-1155

■■この吉田通信は私とご縁のあった方、ご縁をいただきたい方に差し上げている月一人通信です■■

◆トップ不在で猪退治？◆

こんにちは！お世話になります。吉運堂の吉田竹史です。吉田通信第22号をお送りいたします。よろしくお願いいたします。

さて、みなさんは、陶山訥庵(すやま とつあん)さんという方をご存知でしょうか？江戸時代に生きた(長崎は)対馬藩の方で、経営の勉強をしている中で、その名前はときどき出てくるのですが、この陶山さんが成し遂げた偉業から、私はたくさんの学びを得ました。

陶山さんが成し遂げた偉業というのは“猪退治”です。その昔、当時、人口が2万人の対馬に猪がなんと8万頭もいて、対馬の人たちは、農作物を食い荒らすその猪に困っていました。そこで立ち上がったのが、この陶山さん。対馬の全島に(猪に耐えうる)土の壁、さらには仕切垣(柵)を打ち立て、島を9区に分け、冬から春にかけての農閑期に島内の農民を総動員し、1年に1区ずつ、そこにいる猪を退治し“9年かけて”8万頭を全滅させたのです。

この偉業から、経営をしていく上でも、細分化することの大切さ、一点集中、各個撃破で全体制圧などの学びが得られたのですが、私にとって一番の学びは、なんとと言っても“マニュアルの大切さ”でした。

実は、この陶山さん、猪退治を始めて5年が過ぎた頃、サラリーマンの社会と同じように、足を引っ張られ、なんとその役を降ろされてしまったのです。つまり、猪退治プロジェクトは、途中でトップ不在に…。にも関わらず、その4年後に(足かけ9年で)猪を全滅させています。

この背景には、手引き書(今で言うところの“マニュアル”)の存在がありました。陶山さんは、猪退治のリーダーとなる村役人や名主に、役割分担と仕事内容が書かれた手引き書を作り、教育していました。また、現場の人へは土の壁や仕切垣(柵)の作り方の手順が書かれた手引き書を作り、教育・訓練をしていたとのこと。



上の人がいなくなっても成果が上がり続ける仕組みがそこにはあったのです。遠い昔のお話ですが、私はとても大きな学びを得ることができました。

◆発行者コラム◆

今回もまた最後までお読みいただきまして、どうもありがとうございます！さて、6月に地元で行われました“白根大凧合戦”に、今年も吉運堂として出場してきました！この白根大凧合戦は、中ノ口川を挟んで両側から2チームが手作りの大凧を揚げ、空中でお互いを引っ掛け、川に凧が落ちてから綱引きのように引っ張り合い、相手の凧の糸を切った方が勝ちというもの。ちなみに、今年50チーム中、惜しくも4位…。(涙)。来年は優勝できるように頑張ります！吉田竹史

■吉田通信を今後ご希望されない方は、大変お手数ですが090-3339-0424までご連絡をお願いいたします。■

【発行者プロフィール】

名前:吉田 竹史(よしだ たけし)
生年月日:昭和40年8月21日(O型)
出身地:新潟県白根市(現・新潟市南区)
経歴:都内の学校を卒業後、証券会社(水戸&ニューヨーク)の4年間の勤務を経て吉運堂へ。

趣味:上手くないゴルフ、強くない将棋
(NHKの将棋対局を見ることは好きです)
家族構成:妻、娘、息子



吉田 竹史